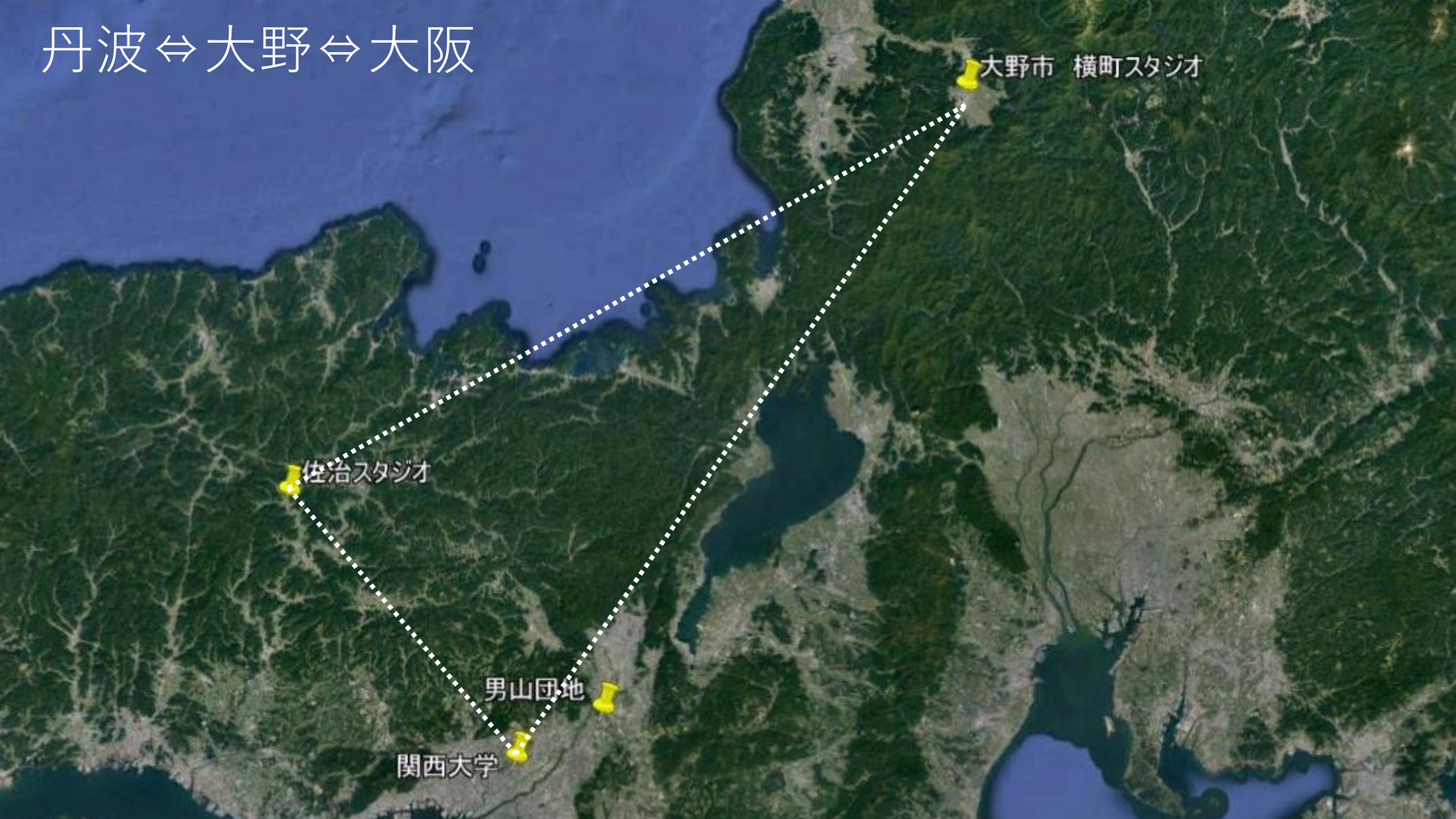
地域再生（大野）

城下町の暮らしを体験し学ぶ

丹波⇔大野⇔大阪



関わり続けるという定住のカタチ

関わり続ける中でしか「見えてこない」ものがある
長い時間をかけながら「地域の再生」を考え続ける

21世紀の故郷作り

豊かな山河に囲まれた美しい故郷を持つことができる
将来にわたり訪れ、帰ることのできる故郷のような場所

大学の活動拠点・地域の交流拠点　関西大学佐治スタジオ

空き家リノベーションプログラム

地域の課題・地域の資源×大学のチカラ×地域のチカラ

学生が主体的に改修を行う。

図面はない…
考えながら議論しながら作る。

地域再生(丹波) -地域に滞在し、地域を身体で感じ、地域再生を考える場-

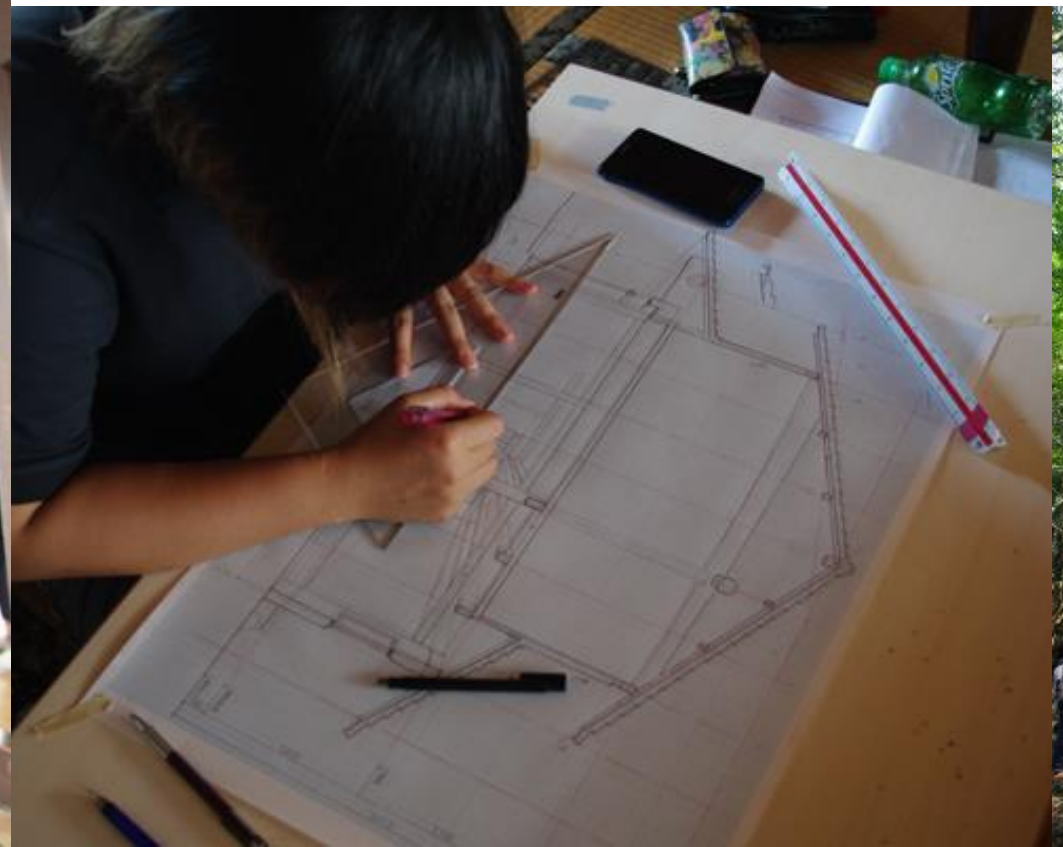
地域再生(丹波) -地域に滞在し、地域を身体で感じ、地域再生を考える場-

2泊3日の現地ゼミ×環境都市工学部の教員による6講座

地域再生(丹波プレ)　木造建築基礎講座

山から木造建築が出来るまでの物語を学ぶ
山の再生、古民家の活用、木造建築の仕組みを学ぶ

組み合わせ次第で、様々なプログラムを作ることが出来る



地域交流ワークショップ

「地域を知る」から「地域に学ぶ」へ

空き家活用法人佐治倶楽部

関西大学から業務委託を受けて
拠点の運営と大学連携・授業運営のサポート
滞在中の学生の食事の用意なども・・・支援

関西大学・丹波市連携事業推進協議会を設立し
毎月1回の定例打合せを実施、
佐治倶楽部が事務局運営を担っている。

単位認定の無い取り組みについては、
丹波市からの上記団体へ負担金を拠出し実施

地域再生研究支援事業(R5～実施)
他学部の教員やゼミ活動を行う際の
活動費の一部を補助する仕組みを設置
⇒地域連携センターの支援を受けて、
　年々、研究事業を行うゼミが増えてきている

大野市に「関わり続ける」拠点をつくる

大学の活動拠点・地域の交流拠点　関西大学横町スタジオ

城下町を有するのは24自治体のうち大野市を含め3市のみ

▼

城下町の魅力創出事業と連携することで、
この授業をきっかけに全学的に展開可能なテーマです。

地下水、越前大野城、武家屋敷、盆踊り、朝市、発酵食文化…
テレビ局1社,新聞2社が当日取材し注目度の高さが伺えた。

https://www3.nhk.or.jp/lnews/fukui/20240829/movie/3050018712_20240829185530.html?movie=false

日時	内容
R4.05.11	関西大学にて大野市、教授3名、地域連携センター、横町編集部と連携事業の方針について意見交換を実施。連携の方向性として、地域再生大野の開講がアイデアとして教授陣から出る。
R4.04~R5.03	地域再生大野のビジョン作成を実施。（２１回実施）
R4.10.27	関西大学にて地域再生大野のビジョンを共有。大野市、教授3名、地域連携センター、横町編集部が意見交換を実施。
R5.05.25	大野市役所にて大野市と横町編集部で地域再生大野開講に向けた打ち合わせの実施。大野市として新たな事業として予算化に向けた協議が始まる。
R5.08.04	関西大学にて地域再生丹波を事例に、地域再生大野の概要を共有。 予算化や実施に向けたスケジュールなどを協議。
R5.09.01	北詰先生と協議のもと、令和6年度実施に向けて、大野市では概要、事業目的、経費負担、スケジュール、見積もりについて整理。
R5.10.19	関西大学にて大野市長が講演会を実施。
R6.02	・横町編集部が関わり続ける定住の拡大に向けた横町スタジオ環境整備計画策定。 ハード、ソフト両面で学生の受け入れ環境整備の方針がまとまる。 ・地域再生大野の実施が確定。
R6.02.26	大野市役所にて、まちづくり研究報告会の実施。北詰教授より単位認定大野の開講発表およびプレスリリース。同時に、大野市から予算の支払い先について相談がある。
R6.03~04	・大野市が予算化。具体的な講座内容の企画案がまとまる。 ・3年間の連携協定の延長。
R6.04.24	・関西大学にて地域再生大野の実施に向けて大野市、地域連携センター、横町編集部で協議。同日理工系オフィスに面会。関西大学として予算化に向けた検討・協議が始まる。

地域再生「大野」のサマリー

位置付け
自治体・大学・地域が協働して実現する地域のまちづくりとしての講義

目的
講義をきっかけに都市と地域あるいは地域と地域の人材をシャッフルすること

目指す姿
・講義をきっかけに、市民主体のまちづくりの発展、または関係人口創出の機運が高まっている
・本講義が地域のまちづくりとして広く開講され、市民と学生がともに学び、成長するモデルになっている

講義概要
・環境都市工学部の３学科の学生が履修できる
・大野市横町スタジオを拠点に、オリエンテーション、二泊三日の滞在型講座と2回の地域再生WSに参加し、
　実習内容を報告する。(15時間相当)

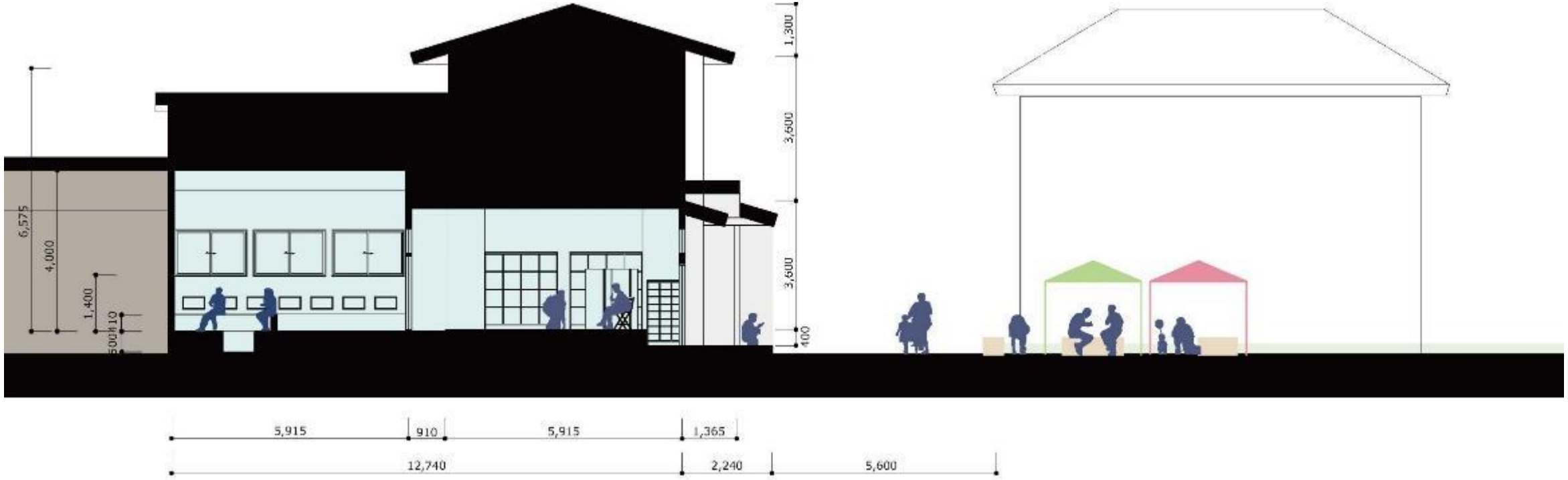
成果
・初年度は２５名の応募があり、先着８名が履修者となった
・本講義のコンセプトが定着し、本市の歴史・文化的な資源を活かした講義方針が示されたこと
・地域再生WSは、４回のWSを通じて一般参加者が56名参加した

課題
・講義テーマの確保と学生の成果物の質の向上

二泊三日滞在型講座「銭湯からの地域再生」

大野市は，城下町としての趣きを強く残すとともに，周辺の山々からもたらされる地下水で有名である．この特徴を活かす取り組みとして，今も残る「銭湯」に着目し，銭湯を起点としたコミュニティづくりの提案や，近接する空き地での県産材を利用した休憩・サウナ小屋の設計提案，江戸時代から続くおがくずで湯を沸かす方法の調査・分析を実施する．

① 計画案：銭湯を起点とした城下町エリアリノベーション企画（都市システム学生向け）
② 戦略案：リノベーション企画の実現に向けた行動計画（都市システム学生向け）
③ 設計案：銭湯およびそのコミュニティ存続に向けたサウナ休憩小屋設計（建築学生向け）



明治35年創業で
現存する県内最古の銭湯

名水である地下水を
利用したお湯

薪と大鋸屑を
燃料として使用

城下町の暮らし体験施設として、

これからの銭湯の更新について考えたい。

7/25 履修者向けガイダンス

8/27-29　地域再生(大野)滞在型講座の実施

8/27-29　地域再生(大野)滞在型講座のフィールドワークの実施

8/10 地域再生WSこどもまんなかフェス

9/15 地域再生WSの様子

10/13,11/24　地域再生WSの様子

12/21　地域再生「丹波・大野」合同最終報告会の様子

グループ1　計画班

将来像
観光客の交流拠点

亀山湯良いところ

昭和レトロな
雰囲気

他との競合条件

常連客いない

まちと銭湯を繋げる

整備基本方向
ゲストハウスの宿泊者や登山客などの
観光客をターゲットとする

具体的実施プロセス
イベントの実施
武家屋敷の連携

利用者のニーズ
まちの繋がりが
欲しい

オーナーのニーズ
ボイラーや煙突を
早急に直したい
情報発信が大切
欲しい

グループ2　戦略班

銭湯、銭湯周辺の将来像
老若男女問わず幅広い人が利用できるコミュニティとなる

常連さんを増やす、育てる

強み
レトロな外観や雰囲気
長く通い続ける
常連さんがいる

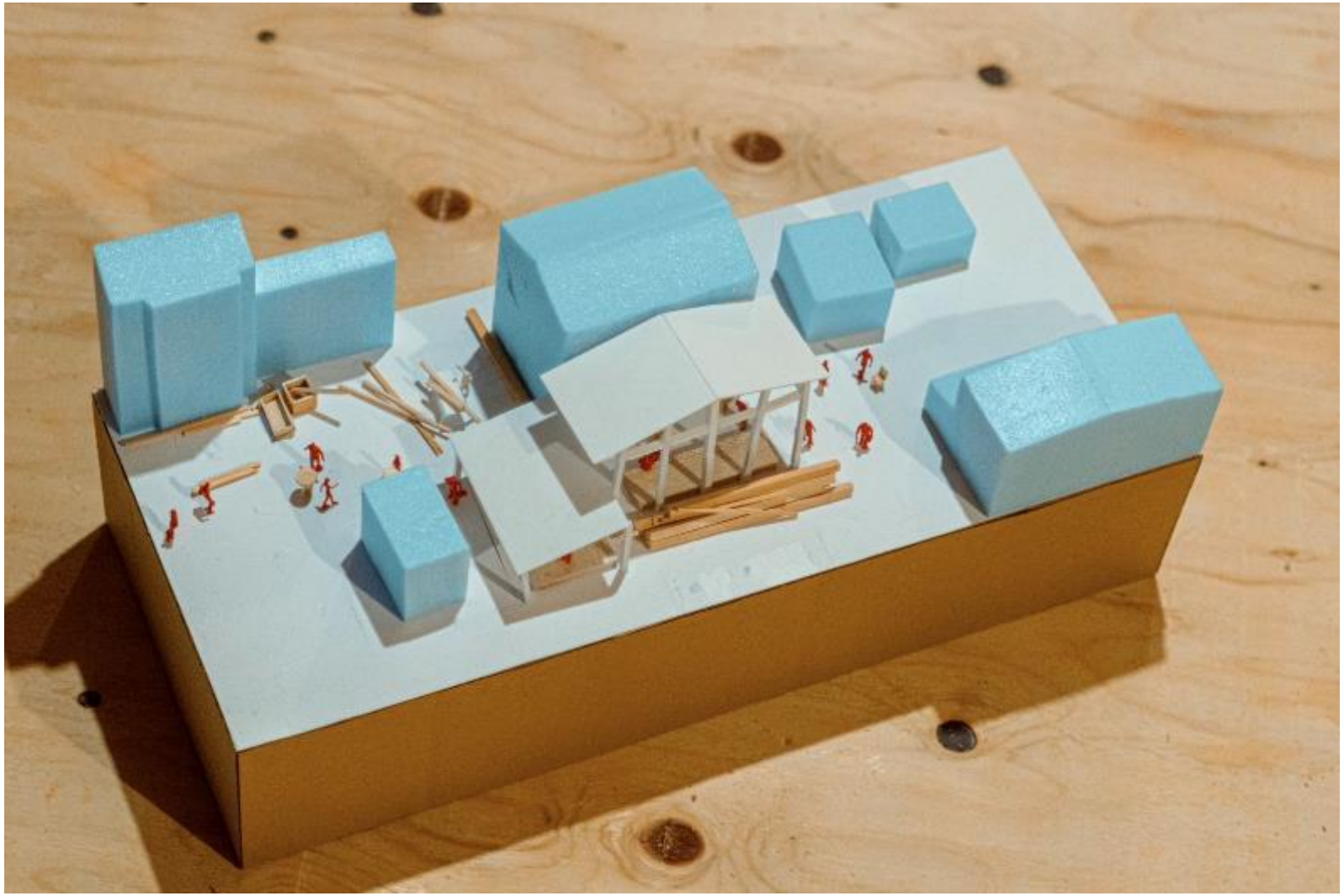
競合相手
コストパフォーマンスの高いスーパー銭湯

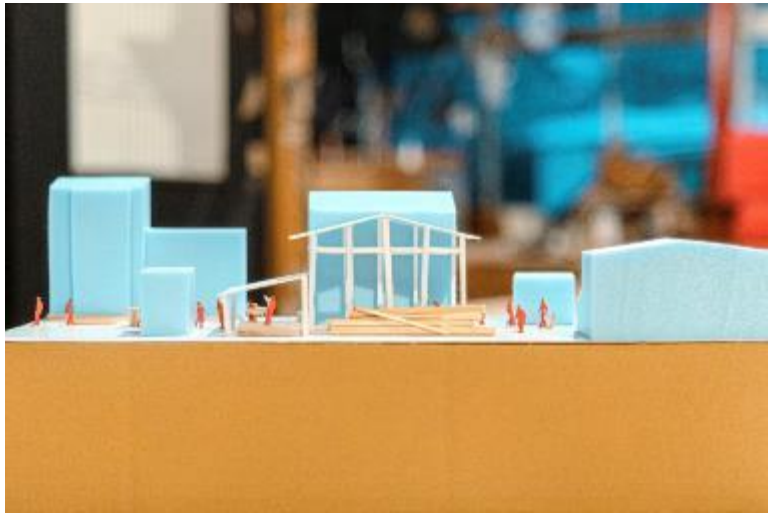
- 今銭湯を利用している人からの紹介で、人をつなぐ
- 訪れた人が広報誌を通じて魅力を伝える

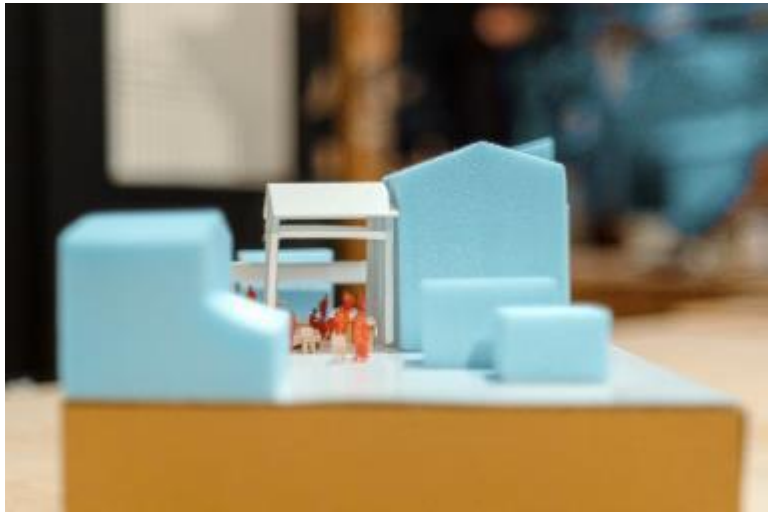
利用者のニーズ
→家でお風呂に入るより銭湯が楽
経営者の考え
→次にお客さんになる予備軍がいない

グループ3　設計班

敷地に面する武家屋敷が宿として活用されていることを前提に、銭湯を休憩所・大浴場の位置付け。提案は、お客さんがお湯を沸かす工程を見学できる小屋の設計をした。







地域再生(大野)を振り返って。

テーマの設定

地域が大切にしているもの、大切にすべきもの、これから大切にしていくもの

学生と「故郷に帰ってきた子供や孫」のように付き合う

ありのままの地域の姿にこそ、学ぶべきものがたくさんある

「接点」「密度」のデザイン

授業として求められること、まちづくりの視点から求められることのバランス

「プロセス」のデザイン

プログラムの中に、どれだけたくさんの人が、どのように関わっているかという指標